施工説明書

TOTO

リモデア水栓

LTL486F型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

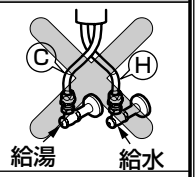
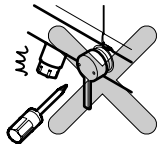
●この説明書では商品を安全に正しく取り付けていただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があることを示しています。

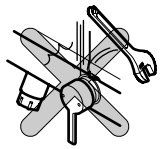
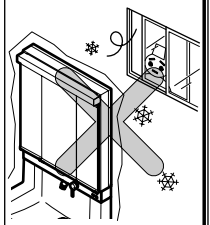
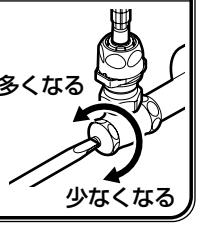
●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

	⃠は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「分解禁止」を示します。
	❗は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

⚠ 警　告

禁止	**湯水を逆に配管しない** 水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。	
	給湯温度は85℃より高温で使用しない 85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。	
分解禁止	**この説明書に記載された項目以外は分解・改造しない** 破損して、やけど・けがをしたり、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。	

⚠ 注　意

禁止	**強い力や衝撃を与えない** 破損して、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。	
必ず実行	**凍結が予想される場所で使用する場合は、配管部などに保温材を巻く** **また、寒冷地用の場合は、「9 寒冷地用の水抜き方法」を参照し、凍結予防を確実に行う** 部品が破損し、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。	
	必ず止水栓にて流量を調節する 配管の給水圧が高いと水が勢い良く出すぎて、ご使用の際、水はねする場合があります。 「8 点検項目」の「流量および吐水温度の確認」を参照し、調節してください。	

2 仕様

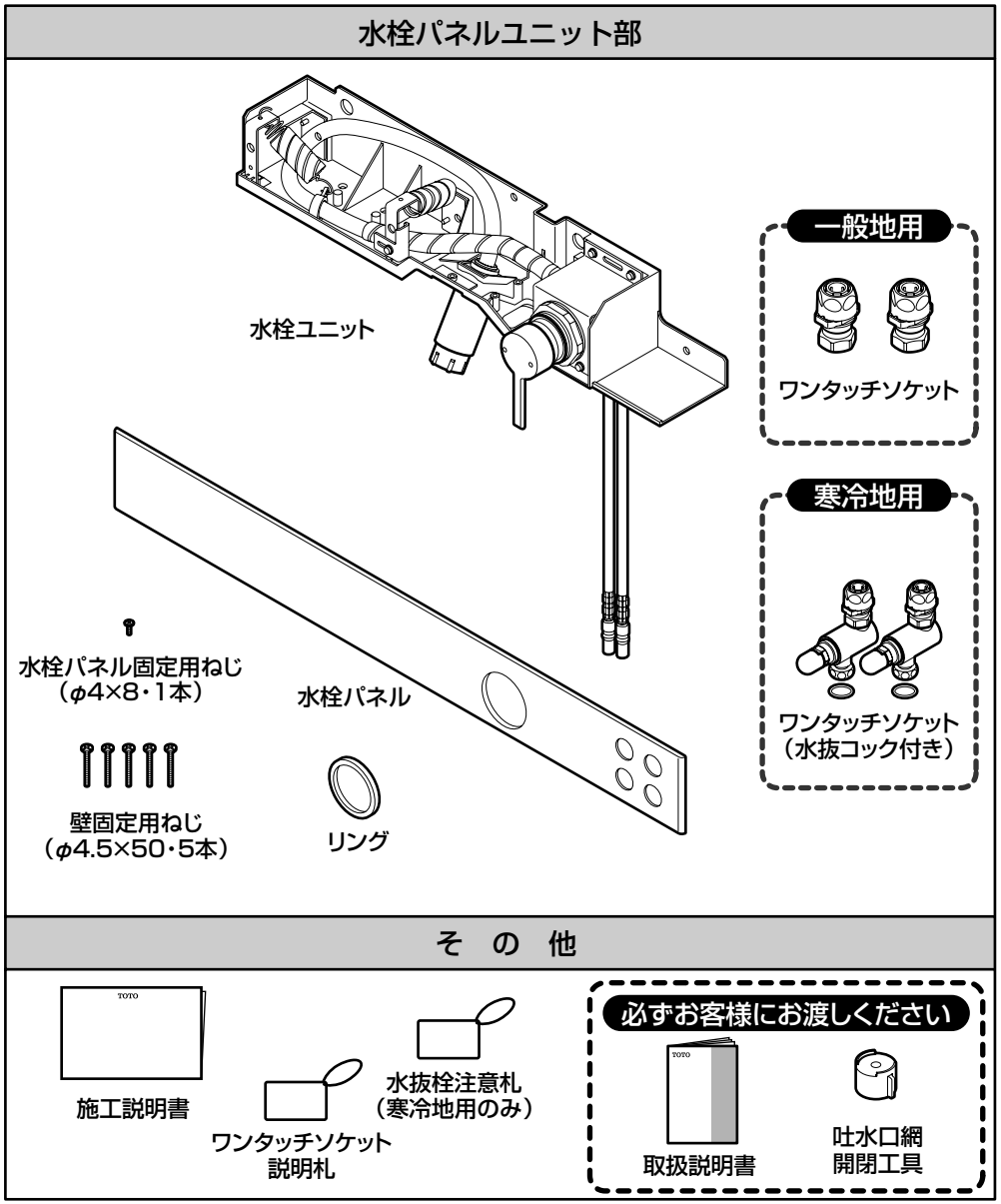
給水・給湯圧力	最低必要水圧	0.05MPa(流動時)
	最高水圧	0.75MPa(静止時)
使用最高温度		85℃以下
使用可能水質		水道水および飲用可能な井戸水
使用環境温度	一般地用	1～40℃
	寒冷地用	−20～40℃ (ただし、0℃以下は水を抜いた状態)
用　　途		一般住宅洗面所用

3 取り付け前に

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2～0.3MPa程度に減圧してください。快適に水栓をお使いいただくためには、0.2～0.3MPa程度の圧力をおすすめします。
- 湯ぽっと（TOTO製洗面所用電気温水器）と組み合わせる場合は、電気温水器入口への最低給水圧力が0.1MPa以上必要です。
  給水圧力が低いと吐水量が不足し、水の勢いが十分に得られません。
- 誤操作などによるやけど防止のため、給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。
  また、湯側を加圧する場合でも、必ず湯側圧力を水側より低くしてください。
- 給湯機からの給湯管は、抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
- 瞬間式給湯機の場合、給湯機の能力・水圧などの条件により、給湯機が着火しないことがあります。
- 水勢調節および器具の点検を容易にするために、別途止水栓を必ずご用意ください。
- 梱包前に通水検査をしていますので、商品内に水が残っている可能性がありますが、商品には問題ありません。
- 止水栓を取り付けたあと、給水・給湯管内のごみを完全に洗い流してください。内部にごみが詰まり、吐水量が少なくなったり、吐水が乱れたりすることがあります。

4 部品の確認

次の部品があることを確認してください。

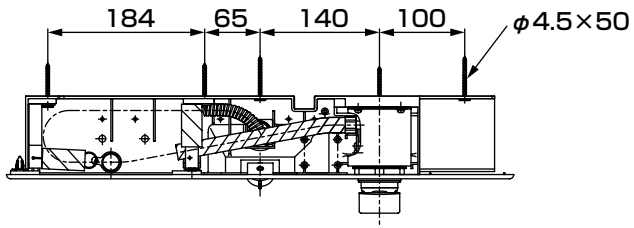


※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

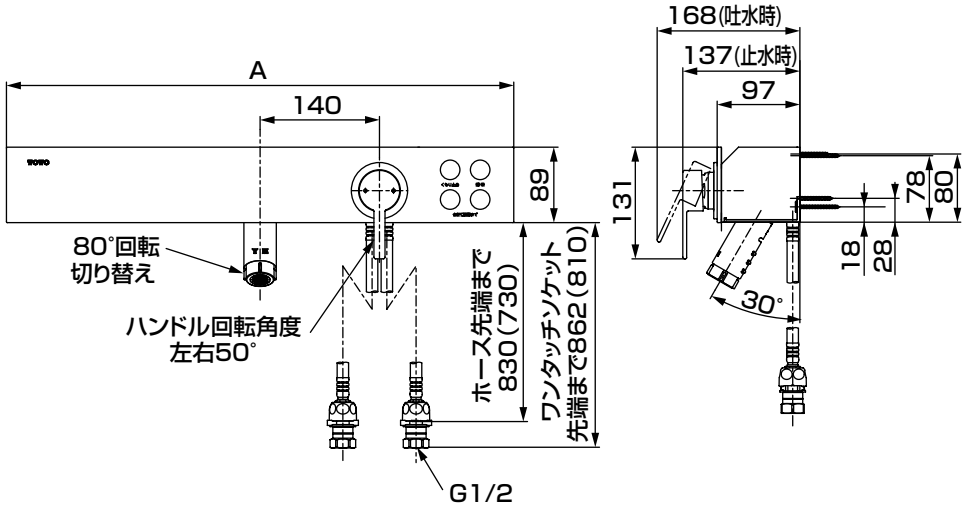
5 完成図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

(単位：mm)

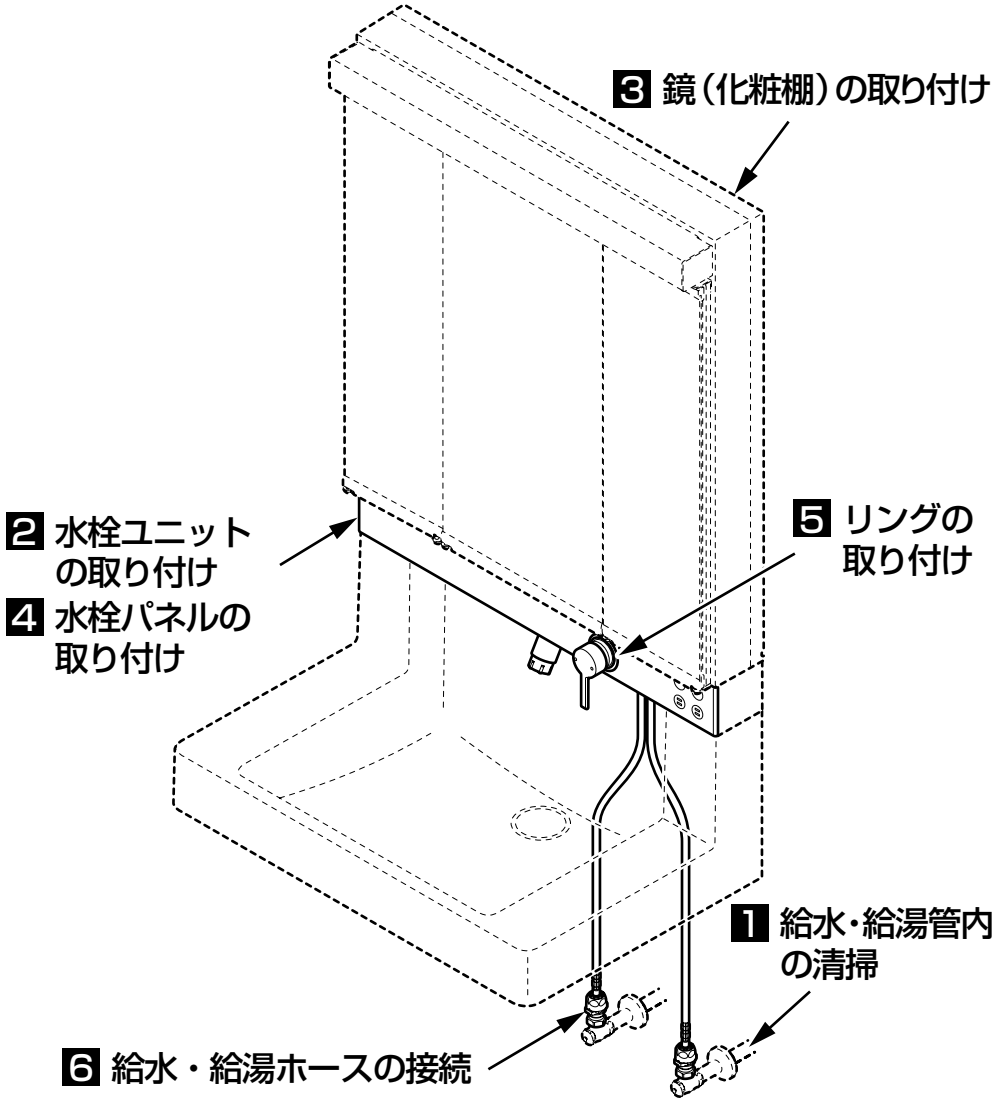


品番	A寸法
LTL486F型	595
LTL486F1型	695
LTL486F2型	745



※(　)内寸法は、寒冷地用の場合

6-1 施工手順



1 給水・給湯管内の清掃

取り付ける前に**必ず給水・給湯管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

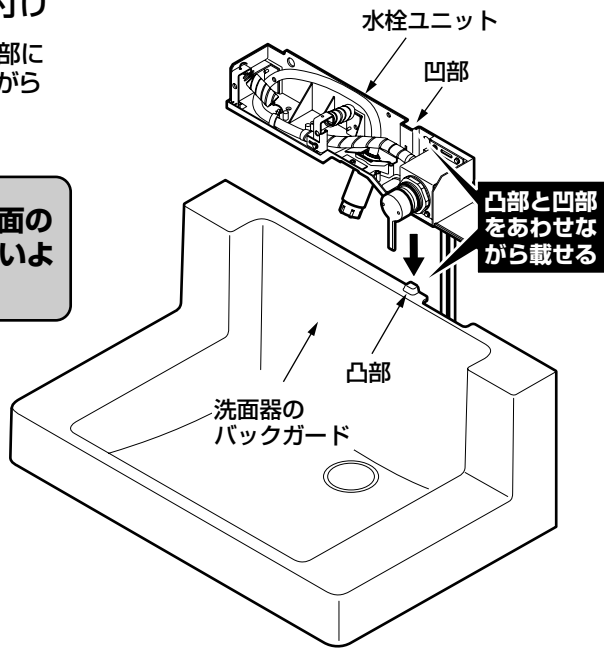
重要

2 水栓ユニットの取り付け

①洗面器のバックガードの上の凸部に水栓ユニットの凹部をあわせながら載せる。

注 意

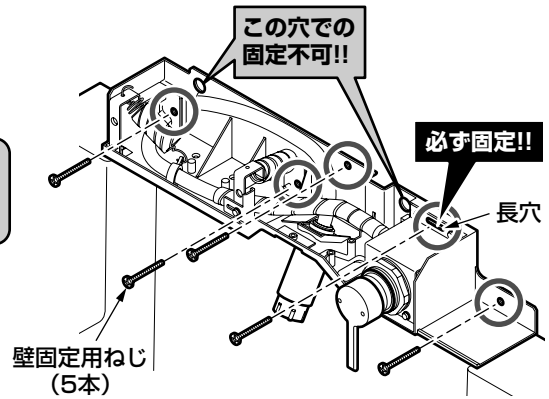
載せる際、水栓ユニット底面の防水クッションがねじれないように注意してください。



②水栓ユニットを洗面器に押さえ付けながら壁固定用ねじで5カ所、壁に固定する。

注 意

長穴（中心付近）に必ず壁固定用ねじで固定してください。



3 鏡（化粧棚）の取り付け

取り付けについては、鏡または化粧棚の施工説明書をご参照ください。

4 水栓パネルの取り付け

①水栓パネルをレバーハンドルに通す。

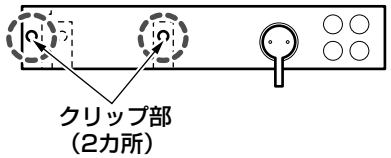
注 意

レバーハンドルは取り外さないでください。

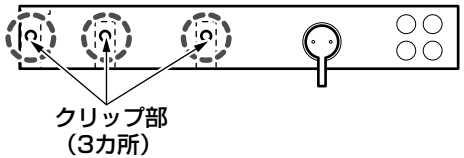
②水栓パネル右端のツメ（2カ所）を差し込む。

③クリップ部を「パチッ」と音がするまで押し込む。

600・700サイズ



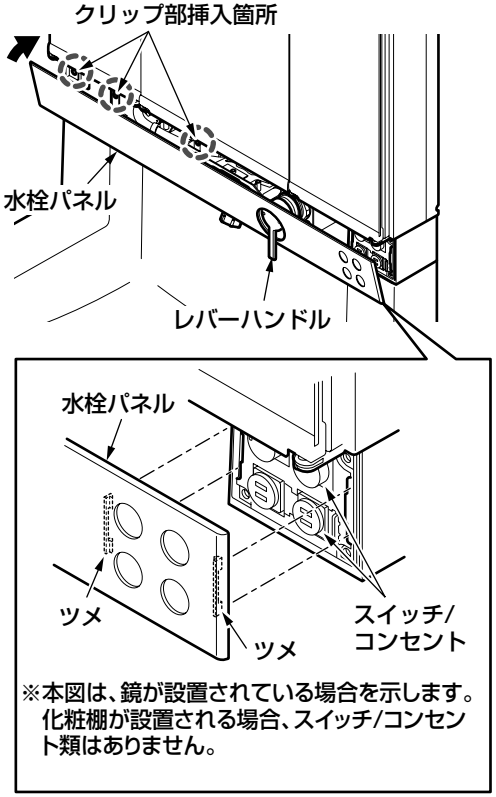
750サイズ



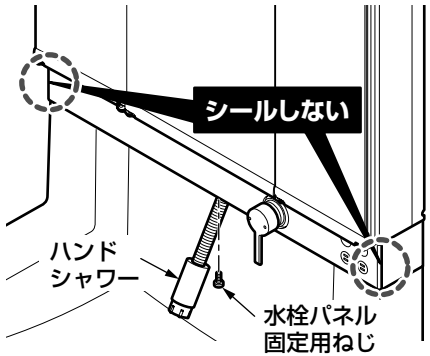
④ハンドシャワーを引き出し、下側から水栓パネル固定用ねじで固定する。

注 意

メンテナンスの際に水栓パネルを外すため、水栓パネルの両端・下端にはメジシールしないでください。



※本図は、鏡が設置されている場合を示します。化粧棚が設置される場合、スイッチ/コンセント類はありません。



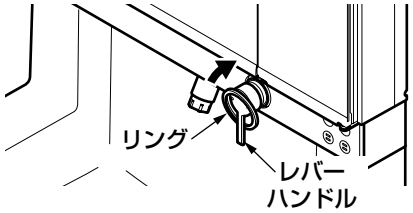
裏面へつづく

5 リングの取り付け

レバーハンドルにリングを通し、最後までしっかり締め込む。

注 意

レバーハンドルは取り外さないでください。



6 給水・給湯ホースの接続

①ワンタッチソケットを止水栓に固定する。

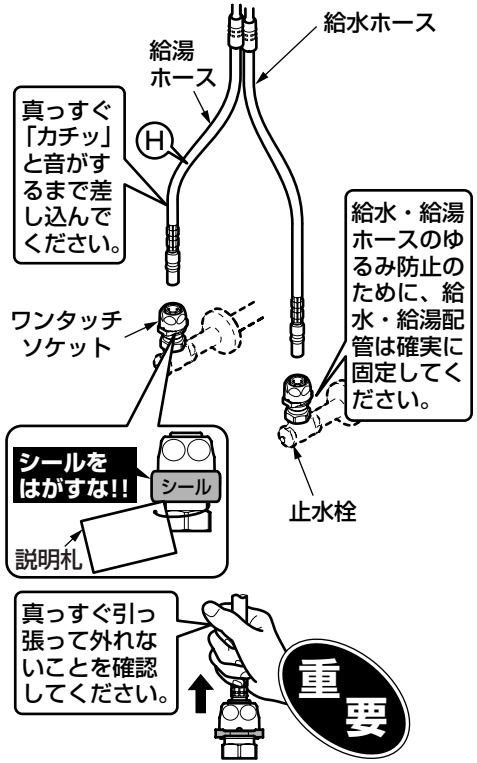
注 意

ワンタッチソケットに貼られたシールをはがさないで取り付けてください。
そのままでもホースを差し込めます。

②給水・給湯ホースに 異物の付着がないことを確認し、ワンタッチソケットに 真っすぐ奥まで (「カチッ」 と音がするまで) 確実に差し込む。
確実に差し込まれていない場合、水漏れの原因となります。

この際、同梱の「 ワンタッチソケット 」の説明札を必ずワンタッチソケットまたは止水栓につり下げてください。

③ホースを 真っすぐ引っ張って外れない（抜けない） ことを必ず確認する。



施工後、万一ホースを外した場合は、「 ワンタッチソケット 」の説明札を確認のうえ、必ずワンタッチソケットとホース内の残水を抜いてからホースを差し込んでください。

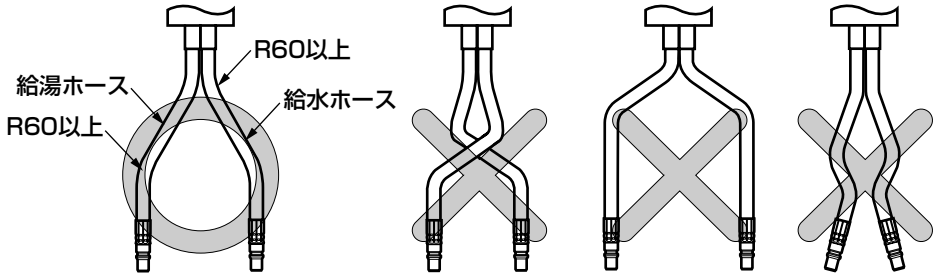
給水・給湯ホース施工上の注意点

●ホースを 必要以上の力で曲げて 折らないように 注意してください。
ホースの 最小曲げ半径は60mm です。それよりも小さく曲げて使用すると、ホースが折れ、十分な流量が出ない場合や、破損、水漏れのおそれがあります。

●ホースを 水栓本体端面から極端に屈曲して施工しないで ください。

●ホースを 無理に引っ張らないで ください。ホースが折れる可能性があります。

●ホース同士の 不要な接触は避けて ください。
外部補強層の摩擦による外傷でホース性能の劣化の可能性があります。



7 使用上の注意

ご使用中に以下のような現象が発生することがありますが、故障ではありません。
お客様に十分にご説明ください。

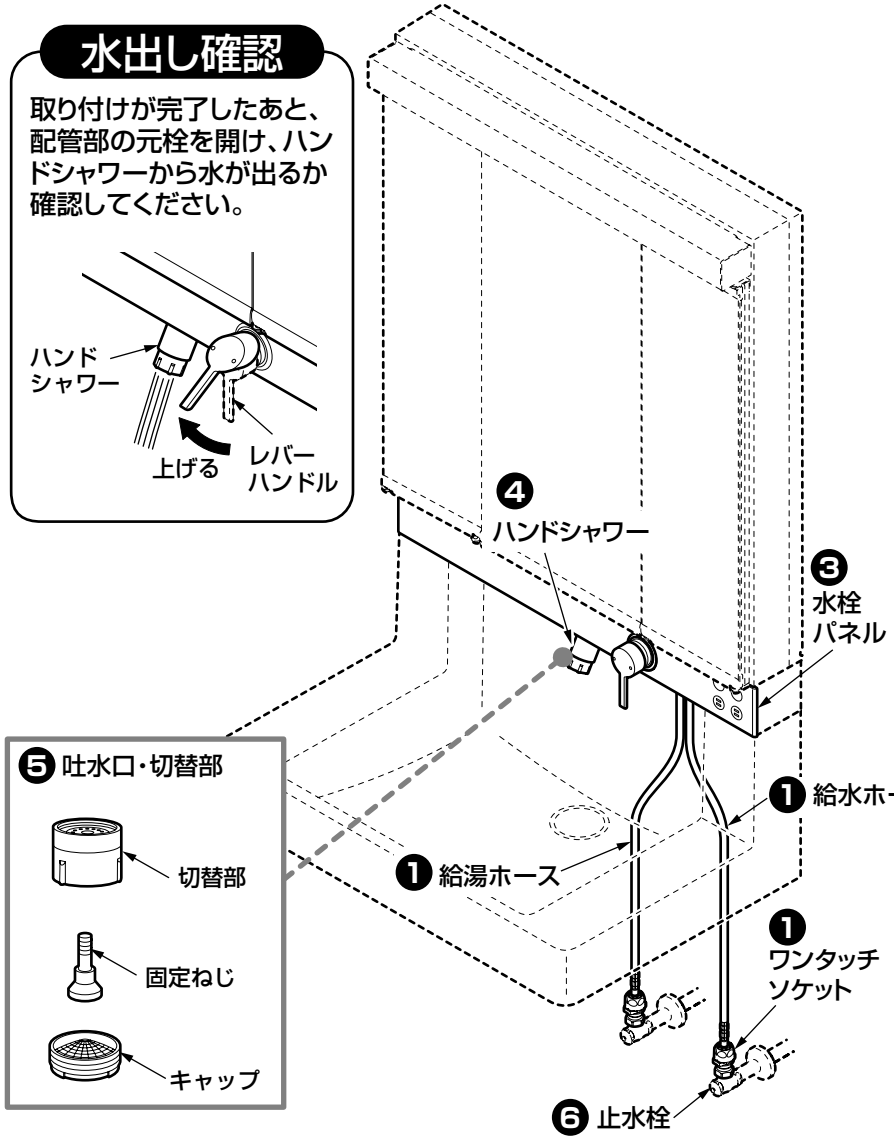
現　象	説　明
流水音が大きいと感じる。	水圧が高いことや使用流量が多いことにより発生することが考えられます。流量を絞ることで流水音を低減できます。
使い始めにくらべて、しばらく使用すると、ハンドル操作が重く感じる。	ご使用により商品内部の部品がなじみ、安定したことによるもので、故障ではありません。

8 点検項目

取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。

水出し確認

取り付けが完了したあと、配管部の元栓を開け、ハンドシャワーから水が出るか確認してください。



水漏れの確認

水漏れがないか確認してください。

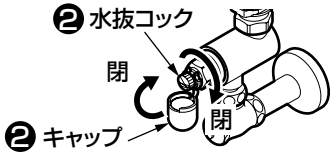
❶ 給水・給湯ホースはワンタッチソケットにしっかり差し込まれていますか?

→ 6-3 ― 6「給水・給湯ホースの接続」参照

寒冷地用の場合

❷ 水抜コックは、しっかり閉まっていますか?
また、キャップはセットされていますか?

→ 水抜コックを閉める。
キャップをセットする。



ガタツキの確認

ガタツキがないか確認してください。

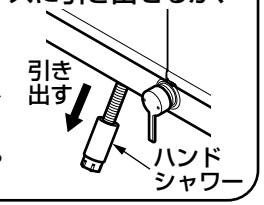
❸ 水栓パネルは固定されていますか?

→ 6-2 ― 4「水栓パネルの取り付け」参照

動作確認

❹ ハンドシャワーがスムーズに引き出せるか、

※ハンドシャワーの引き出し機構にはばねを使用していますので、引き出し長さに比例して少し重くなります。



流量および吐水温度の確認

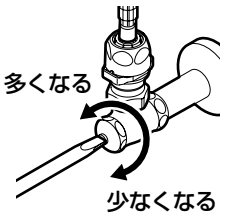
流量が少ないときや、温度調節がうまくできない場合は、次の項目を確認してください。

❺ 吐水口・切替部のごみ詰まりはないですか?

→ 吐水口・切替部の掃除をする。
※取扱説明書「日ごろのお手入れ」参照

❻ 止水栓は開いていますか?

→ 止水栓で流量を調節する。



最適流量の目安

●8Lバケツの場合 :約1分10秒で満水

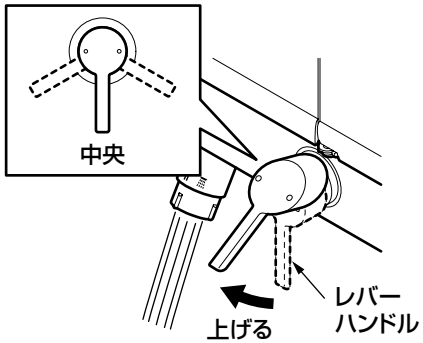
※レバーハンドルを中央位置で上げ、全開にして、最適流量6～7L/分程度になるように止水栓で調節してください。

9 寒冷地用の水抜き方法

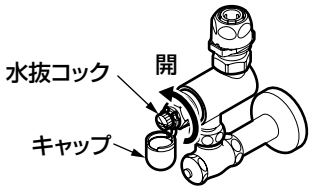
凍結が予想される時期に施工された場合は、水抜きを行っておいてください。
またお客様にも水抜き方法をご説明ください。

1.配管部の水抜栓などにより通水を止めて、水抜きを行う。

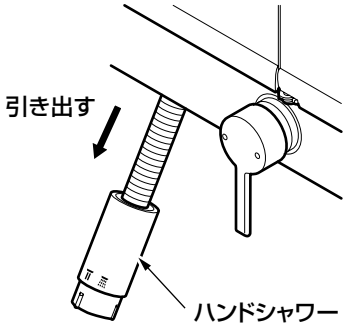
2.レバーハンドルを中央位置で上げる。



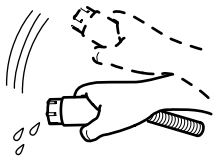
3. 水抜コックのキャップを外し、水抜コックを反時計回りに止まるまで回す。（2カ所）



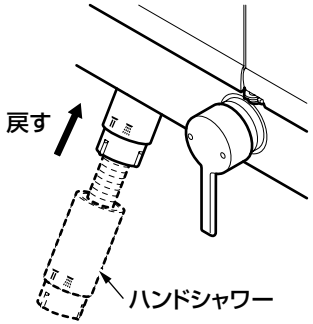
4. ハンドシャワーをすべて引き出す。



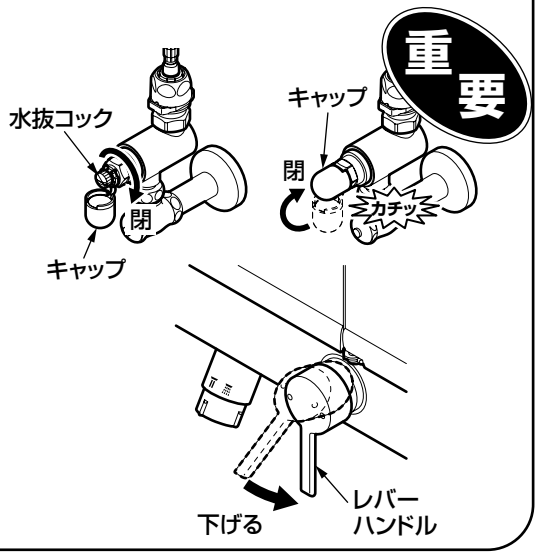
5.ハンドシャワーを洗面器の底まで下げて水をよく切る。



6.ハンドシャワーを元の状態に戻す。



7.水抜き完了後は、必ず水抜コックを閉め、キャップをセットし、レバーハンドルを下げる。（水が出ない状態）



※同梱の取扱説明書などは、必ずお客様にお渡しください。